

## 平成 28 年度第 1 回宇都宮大学経営協議会議事要録

日 時 平成 28 年 4 月 20 日 (水) 10 時 02 分～11 時 37 分  
場 所 宇都宮大学本部第一会議室  
出席者 石田, 飯村, 須賀, 角, 萩原, 築, 藤井, 茅野, 池田, 久保の各委員  
藤井監事, 堀監事, 夏秋副学長, 松金学長特別補佐,  
阿山工学研究科長

議事に先立ち, 学長から, 平成 28 年度第 1 回宇都宮大学経営協議会開催にあたっての挨拶があり, 続いて, 委員名簿順に委員等の自己紹介があった。

次に, 平成 27 年度第 5 回宇都宮大学経営協議会議事要録 (案) を確認し, 原案のとおり承認した。

### [議 題]

#### 1. 国立大学法人宇都宮大学学長選考会議の委員選出について 資料 1

学長から, 資料 1 に基づき, 国立大学法人宇都宮大学学長選考会議の委員について, 同選考会議規程第 2 条第 1 項第 1 号委員 (国立大学法人宇都宮大学経営協議会規程第 2 条第 1 項第 3 号に規定する委員 (学外委員) のうち, 経営協議会において選出された者 5 名) を選出願いたい旨の説明があり, 審議の結果, 飯村委員に選出のとりまとめを依頼し, 学長に報告願うこととした。

また, 委員の任期は, 委員選出の報告のあった日から平成 30 年 3 月 31 日までとなる旨の説明があった。

#### 2. 平成 28 年度各部局年度計画 (案) について 資料 2

藤井理事から, 資料 2 に基づき, 平成 28 年度各部局年度計画 (案) について説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認した。

(主な意見等)

- 資料 11 ページ②-2 の「教員の教育力向上のための適切な取組の普及」に関し, 「学生の授業評価の効果的活用」をあげているが, このようなシステムが本学にあるのか, また, それをどう活用するのかを伺いたい。

(本学: 個々の授業内容はシラバス等で公表しているが, それを学生がどう評価しているかという点では, 全ての科目でアンケート調査を行い, 集計し, 公開している。また, 公開するだけでなく, その分布にも注目し, 評価の低い教員についてはそれぞれの学部で対応しており, 逆に評価の高い教員は「ベストレクチャー」として表彰を行っている。

もう一方で, 学生生活全体の満足度について, 2 年に 1 回「学生生活実態調査」でアンケートを実施しており, この両方を併せて分析を行う体系となっている。)

- 評価結果を公開しているというのは非常に良いことである。教育力向上に向けた取組によって優秀な教員を更に伸ばすことが基本であると考えるので, 今後も続けていただきたい。
- 資料 8 ページ③-2 の「成績不振者を指導する」のは明らかであるが, 成績優秀者をどう評価するかという点での取組についても伺いたい。

(本学: 入学式における「学業成績優秀者」の学長表彰以外に, それぞれの学部でその特徴に合わせ独自に範囲を広げて「学部長賞」を設け, 学部のオリエンテーションの席で入学生を前に表彰を行っている。また, 学業成績以外でもサークル活動やボランティア活動等で業績を上げた学生についてはその都度学

長表彰を行っている。)

- 資料 35 ページ①-5 の「グローバル時代における大学の位置づけ」についてであるが、外国の大学との単位互換の現状について伺いたい。  
(本学：基本的には協定を締結している大学との学術交流をベースに進めているが、その中でも特徴的なのは工学研究科博士課程における東フィンランド大学及びダブリン大学とのダブルディグリー・プログラムで、わかりやすい単位互換の事例である。それ以外の部分ではケースバイケースになるため、もう少し見える形で進めていきたい。)
- 全国の大学では「国際」と名の付く学部が次々と設置され、人気が高まっていると聞かすが、本学の国際学部は設置されてからもう 20 年が経過しているので、大学の取組をさらにアピールし、単位互換についても積極的に進めていただきたい。  
(本学：国際学部は現在、改組の手続きを進めており、教育課程編成の特色として、以前この場でいただいた意見を踏まえ、海外経験(インターンシップ、交換留学)を必修化した。また、コミュニケーションのベースになるのは英語能力であるので、修了要件の標準として TOEIC のスコアで質を保証することとした。改組はこの 8 月に認可が下りるといことで期待している。詳細については、また改めて学部長から報告させていただきたい。)

### 3. 国立大学法人宇都宮大学役員給与規程の改正について

資料 3

総務課長から、資料 3 に基づき、国立大学法人宇都宮大学役員給与規程の一部を改正する規程(案)について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

### 4. 「UU プラザ利用規程」及び「峰ヶ丘講堂利用規程」の改正について

資料 4

総務課長から、資料 4 に基づき、UU プラザ利用規程の一部を改正する規程(案)及び峰ヶ丘講堂利用規程の一部を改正する規程(案)について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

## [報告事項]

### 1. 内部質保証システムについて

資料 5

藤井理事及び松金学長特別補佐から、資料 5 に基づき、本学の理念、目標の実現に向けて、大学の諸活動の改善・改革を恒常的に行うため、内部質保証の方針を定めた旨の報告があった。

(主な意見等)

- 大学機関別認証評価の評価結果を見ると、「基準 8 教育の内部質保証システム」では「基準を満たしている」という評価を既に得ている。そこで敢えてこの内部質保証システムを策定した理由を伺いたい。  
また、この評価結果の「改善を要する点」の中で「学習の達成度や満足度に関して、有効かつ十分な学生からの意見聴取が行われていない」とされている点については、この方針の中でどう改善が必要としているのかも伺いたい。  
(本学：認証評価結果は最低限の水準に達しているかという判断であり、教育活動の質を向上させるという点では、更に上の水準を目指したいと考えている。  
また、学生の達成度や満足度に関する意見聴取に関しては早速改善に取り組んでいるところであり、アンケート調査における質問方法及び大学院生に対して十分なアンケートがなされていないといった点が不十分であるという指摘であったため、早速改善を行い、大学院生についてはこの 1 月から 2 月にアンケートを

- 実施し、回答を分析しながら対応している。)
- ・そういう意味では、策定した内部質保証の方針にきちんと掲げる必要があるのではないか。  
(本学：体系図には例示しているが、ご指摘のように現在書き込んでいるものをもう少し見える化という形で整理したい。単に学生だけではなく、現在取り組んでいる「企業の満足度」についても、幅広く評価を取り入れていきたい。)
  - ・学長のリーダーシップを発揮し、これをうまく回転させていただきたい。成果が上がればインセンティブ(学長裁量経費など)を与え、伸ばしていただきたい。抵抗もあると思うが、何か問題があれば経営協議会で示していただきたい。また、体系図における「外部評価の実施」のイメージについて伺いたい。  
(本学：組織における外部評価は各学部において実施している。各学部の卒業生や関係の深い有識者に依頼しており、メンバーの選出も各学部で行っている。さらに大学全体として役員及び経営協議会の委員を含めた学外者のヒアリングを予定している。)
  - ・体系図における「内部質保証、点検・評価等に関する中期計画」にある「様々な学外者の意見の取り入れ」、「監事機能の強化」及び「学長による部局長の業績評価」については、それぞれの意見をよく聞きながら進めていただきたい。

## 2. 宇都宮大学アクションプランについて 資料6

藤井理事から、資料6に基づき、「宇都宮大学アクションプラン 2016」を策定し、冊子としてまとめた旨の報告があった。

(主な意見等)

- ・難しい表現もあるので、今後、内容を更新する際には言葉の定義や解説も盛り込んでいただきたい。

## 3. 大学機関別認証評価 評価結果報告書について 資料7

藤井理事から、資料7に基づき、平成27年度実施大学機関別認証評価における評価結果報告書の概要について報告があった。

## 4. 平成28年度宇都宮大学入学者選抜実施結果について 資料8

茅野理事から、資料8に基づき、平成28年度宇都宮大学入学者選抜実施結果の概要について報告があった。

## 5. その他 机上配付資料(バッジ)

茅野理事から、机上配付資料(飲酒抑制バッジ)に基づき、新たにバッジの表面のデザインを変更し、併せて裏面に「学生なんでも相談窓口」の連絡先電話番号を記載した旨の報告があった。さらに、今年も入学式後に開催したオリエンテーションにおいて新入生へ配付した旨の報告があった。

### 机上配付資料

学長から、机上配付資料に基づき、若手職員SDグループ「宇大知り隊！」が作成した小冊子「みんなに教えたい！宇大トリビア！」について紹介があった。

### 参考資料

学長から、参考資料に基づき、平成28年3月から4月における本学関係記事について紹介があった。

(主な意見等)

- ・AIが進んだのではなく学生の読解力が落ちたという日経新聞の報道があったが、本学の附属学校の実状はどうか。中学生の読解力を高めるような援助をお願いしたい。
- ・アクティブ・ラーニングをどう定義するかが重要である。読解力の向上は長い時間をかけて取り組んできたものであり、アクティブ・ラーニングを上手く利用すれば、読解力向上に結びつくのではないか。

以 上